

I 今年度の取組目標等に関する自己評価

1. 【重点目標・数値目標】の達成状況（過去5年間の推移）

（1）進級・卒業に関すること

○ 1年生の進級率 80%以上

（ R2:100 R3:95.1 R4: 84.8 R5: 90.9 R6: 78.9 ） ほぼ達成

○ 3修制での卒業実現率 100%

（ R2:71.4 R3:71.4 R4:100 R5: 66.7 R6: 100 ） **達成**

○ 4年生の卒業率 100%

（ R2:97.4 R3:95.2 R4:100 R5: 91.4 R6: 97.1 ） ほぼ達成

（2）学校生活に関すること

○ 部活動の活躍(全国大会出場・都大会優勝等・作品展等の入賞) 5個以上

（ R2:5 R3:7 R4: 2 R5: 3 R6: 2 ） 未達成

○ 予約者に対する給食の喫食率 75%以上

（ R2:54.9 R3:78.0 R4:74.3 R5: 80.2 R6: 73.5 ） ほぼ達成

（3）進路決定に関すること

○ 上級学校進学希望者及び就職希望者の進路決定率 100%

（ R2:62.1 R3:57.1 R4:90.3 R5: 81.0 R6: 92.9 ） 未達成

○ 卒業生全体の進路決定率 80%以上

（ R2:51.9 R3:60.0 R4:57.1 R5: 61.8 R6: 71.1 ） 未達成

2. 【重点目標達成のための具体的方策】についての自己評価(4段階)

（自己評価の目安） A:達成 B:ほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

（1）学習指導

ア 生徒の能力、適性等に対応した分かりやすい授業、興味のわく授業を行います。（B）

イ 年度末だけ補習を行うのではなく、考査前後や長期休業日中などの補習・講習等の個別指導を充実させます。（B）

ウ ICT 機器・個人端末を有効活用し、個別最適化した学習、協働的な学習を実施します。（C）

エ 生徒が集中して学べる学習環境を保障するため、授業規律を守らせる指導を行います。（C）

オ 面談等を通して、学期ごとに履修・修得を生徒に意識させ、進級率を向上させます。（C）

（2）生活指導

ア 全体指導(全校集会・学年集会)や面談（二者・三者面談）を通して、遅刻や欠席を減らす指導を充実させます。（B）

イ 食育指導を充実させ、給食の予約者に対する喫食率を向上させます。（C）

ウ 校内外の巡回指導を行い、喫煙防止等の徹底を図ります。（C）

エ SC・YSW との連携により、生徒ケアと就労支援を充実させます。（B）

（3）進路指導

ア 各教科の授業や総合の時間等を通して、全教員で早期からのキャリア教育を行い、進路意識を向上させます。（B）

イ 各種説明会や講演会の内容を精査し、生徒の状況にあった進路指導を実現します。（B）

ウ 担任・学年や進路部との個別相談（面談）を通して適切な進路を選択させ、進路決定に繋がります。（C）

(4) 特別活動（部活動・学校行事）

ア 部活動への参加率の増加を図り、成就感・達成感を得ることを通して、学校活性化につなげます。（B）

イ 学校行事への参加率の増加を図り、成就感・達成感を得ることを通して、学校活性化につなげます。（C）

(5) 広報

ア 開かれた学校づくりを推進するため、ホームページの充実を図り、都民へ情報発信を行います。（C）

(6) 学校運営・組織体制

ア 会議時間短縮や業務の効率化を図り、残業時間の前年比縮減を図ります。（A）

イ 全・定の連携を強め、双方の取組が円滑に進むように随時情報共有を図ります。（B）

Ⅱ 次年度以降の課題とそれに対する改善策

	課題	改善策
(1) 学習 指導	授業を大切にする。基礎学力を身に着けさせる。生徒一人一人の資質・能力の向上を図る。	①きちんと出席させる（出席率8割以上）。 ②落ち着いた雰囲気の中で授業を行う。おしゃべりしない。スマホに触らせない指導を徹底する。 ③学力を育む。「分かった」「できた」「面白い」がある授業をつくる。基礎・基本を重視した分かる授業を実践する。 ④多様な選択科目の設置と習熟度別・少人数授業の編成等による個に応じた学習環境を整備する。 ⑤ICTを活用した授業実践と教員一人一人の授業改善を図る。
(2) 生活 指導	基本的生活習慣を確立させる。人と関わる力と、健やかで豊かな心身の育成を図る。授業以外の学校の時間を大切にする。	①遅刻・欠席を減らす・なくす。授業時数を確保する。 ②学校行事、部活動、給食の時間等に積極的に参加させる。ルールを守り、楽しく取り組む。 ③挨拶の励行、時間やルールを守るといった規範意識・マナー意識を定着させる。 ④奉仕の心を培う教育を実践する。 ⑤人権教育とダイバーシティ理解教育を推進する。
(3) 進路 指導	進路未決定者を減らす、なくす。社会人として必要な力を育成し、個々に応じた進路希望の実現を図る。自分の進路を考え、社会とつながる。	①学年ごとの進路指導を充実させ、進路未決定者を減らす、なくす。 ②個人面談、三者面談の時間を確保し、生徒・保護者の声を聞く。 ③SC、YSW、外部機関等と連携して課題解決にあたる。 ④望ましい勤労観の育成、キャリア教育全体計画に基づいた進路指導を充実させる。
(4) 特別 活動	学級数が減少していく中で、部活動・学校行事の充実を図る。	①学校行事・部活動への積極的な参加を奨励する。 ②令和7年度以降は新入生がいなくなるため、学級数が減っても充実感を味わえる部活動、学校行事等を工夫して行う。
(5) 広報 募集 対策	効果的な広報活動を展開する。	学校ホームページを充実させ本校の取組を広く発信する。
(6) 学校 運営 組織 体制	働きがいのある職場を構築する。「働きがい」＋「働きやすさ」、「やりがい」と「つながり」を大切にする。	①働き方改革の推進・業務の効率化 ②安心・安全な教育環境の維持 ③相談活動の充実、関係機関と連携した相談体制の充実